

2026 年 関東支部（新旧引継）幹事会 議事録

日時： 2026 年 3 月 16 日（月）14:00～17:00（予定）

場所： WEB 会議／中央大学理工学部（ハイブリッド開催）

出席者

2025 年度 [支部長] 菅原 [副支部長] 上野、梅林、敷野、島田、平山 [監事] 津越

[常任幹事] 青木、板橋、植田、梅村、岡村、勝又、高橋(由)、高橋(豊)、豊田、中村、西山、古庄、南、由井 [幹事] 吉川、桑原、齋藤、半田、森田

2026 年度 [支部長] 平山 [副支部長] 上野、梅林、敷野、島田 [監事] 坂本、津越 [常任幹事] 青木、板橋、植田、梅村、岡村、勝又、末吉、芹沢、土戸、豊田、中村、西山、則末、半田、火原、保倉、古庄、由井 [幹事] 内田、岡崎、吉川、桑原、齋藤、森田、吉村

«司会：菅原支部長（2025 年度）»

1. 前回議事録確認

2025 年度幹事会（2026 年 1 月 19 日開催）議事録（資料 1） が出席者により承認された。

2. 報告事項

1) 2025 年度会計報告ならびに監査報告（島田副支部長・担当監事）（資料 2）

- ・ 貸借対照表、正味財産増減計算書について報告があった。

- ・ 前回の正味財産増減計算書セミナー等の収入が追加され、決算額は 6,341,439 円となった。支出も増加しており、当期正味財産増減額は約 90 万円のマイナスとなった。このマイナス分については、流動資産を取り崩して対応した旨が報告された。

- ・ 津越監事より会計監査報告が行われ、支出および領収書類との照合の結果、問題ないことが確認された。

2) 理事会報告（敷野副支部長）（資料 3）

2026 年 2 月 19 日に開催された 2025 年度第 6 回理事会について報告された。

主な内容は、予算案の確認、2026 年度各編集委員会報告、Springer Nature（SN 社）との契約更新、年会・討論会に関する報告のほか、産業界シンポジウム報告、分析イノベーション交流会、標準物質委員会報告、会員・広報に関する報告等であった。

3) 2025 年度事業報告（菅原支部長）（資料 4）

- ・ 2025 年度日本分析化学会関東支部事業報告が行われた。

・第3回常任幹事会の開催日程、および学会賞等候補者推薦委員会、新世紀賞・新世紀新人賞選考委員会、支部役員推薦委員会の開催日について、いずれも同日に実施したため「11月11日」から「11月18日」へ修正することが指摘された。

4) 編集委員会報告(3誌)(高橋(豊)・南・梅林 各常任幹事)

ぶんせき：特筆すべき報告事項なし。

分析化学(南 常任幹事)：各種賞について議論があったが、問題なく発行手続きに進んでいる旨の報告があった。

Anal. Sci.(梅林 常任幹事)：特筆すべき報告事項なし。

5) 支部ニュース Vol. 35 版の発行について(勝又常任幹事)

編集が完了し、近日中にウェブサイトへアップロードされることが報告された。

6) 支部主催 講習会(敷野副支部長・由井常任幹事)(資料5)

講習会全体の予算計画は達成したものの、会によっては参加者が10名程度に留まるものもあったため、来年度はさらなる参加人数増加に向けて取り組んでいただきたい旨の要望があった。由井常任幹事より「第36回分析化学基礎実習」の報告があり、再開に伴う実験器具購入費(支出：412,252円)が発生したが、参加費収入により若干の黒字となった。当日の様子は支部ニュースを参照されたい旨が報告された。次回の実習は2026年8月を予定している。

7) 令和7年度分析イノベーション交流会 実施報告(豊田常任幹事)(資料6)

2026年2月12日(木)・13日(金)に東京大学駒場キャンパスで開催された分析イノベーション交流会について開催報告があった。なお、来年度からは同交流会が本部主催となる旨が併せて報告された。

8) その他

・公益社団法人日本分析化学会関東支部の2025年度事業監査について、津越監事より報告が行われた。分析化学基礎実習(微量分析技術実習コース)のテキストについて、最新のJISに基づき内容を一新した旨の報告があった。

「司会：平山支部長（2026 年度）」

3. 審議および報告事項

1) 2026 年度事業計画（平山支部長）（資料 7）

来年度の事業計画について報告があった。昨年度からの変更点として、分析イノベーション交流会が本部主催へと移行したことに伴い、関東支部の事業計画から除外された旨が説明された。

2) 2026 年度予算計画（平山支部長）（資料 8）

- ・ 予算計画案について説明が行われた。
- ・ 講習会収入は昨年度の実績を考慮して増額されている。
- ・ 年間予算における 190 円の赤字計上について複数名の幹事より指摘があったが、本部事務局長からの指導も踏まえ、本年度はこの予算案のまま進行することが承認された。
- ・ 末吉常任幹事より会議費の使用用途に関する質問があり、事務局より若手の会および会議に伴う雑費として使用している旨の回答があった。

3) 2026 年度常任幹事任務分担（平山支部長）（資料 9）

- ・ 2026 年度支部役員および業務分担について報告された。また、分析イノベーション交流会は本部移管となったが、関東支部における窓口業務を豊田、東海林、菅沼常任幹事が担当する。

4) 2026 年度イベントスケジュール（平山支部長）（資料 10）

- ・ 日程が確定しているイベントは資料に記載の通り進行し、不確定なイベントについては順次更新・調整していく方針が共有された。
- ・ 支部内のイベント重複を避けるため、日程が決定した行事は順次公式ホームページに追記する運用とし、支部長、副支部長等も直接書き込みができるよう権限設定を行うこととなった。

5) 2027 年新潟年会について（新潟大学 梅林常任幹事）（資料 11）

2027 年度日本分析化学年会（第 76 年会）の開催について報告された。開催日については 2027 年 9 月 20 日（月）～22 日（水）、新潟大学五十嵐キャンパスで決定となった。

本件に関する各種伺い事項と回答は以下の通りである。

- ・ 実行委員会に新潟地区部会の先生を加えてよいか。
- ⇒問題ない。

- ・ Confit の利用料金の負担区分は？

⇒ 実行委員会が負担する。

・支出に関する支払い業務の担当は？

⇒実行委員会の会計が支払う（Confit より月 2 回の支払いがあり、本部が作成したネット銀行口座を運用することが多い）。現金化については、別途確認して共有することとなった。

・プログラム編成の入力は現地委員会と実行委員会のどちらが担当するか？

⇒本来は実行委員会の業務であるが、慣例として Confit 委員会が実行委員会と協力して実施している。

・企業展示会における実行委員会と株式会社明報社の役割分担について。

⇒パーティション等の設営準備は実行委員会が行うため、関連費用を予算に追加する。明報社は企業の誘致活動等を実施する。

6) 2026 年度役員等選考委員候補者推薦（平山支部長）

役員等選考の規程改定が進んでいる段階のため、決定後に対応する。

7) その他

スケジュールの決定時期について（保倉常任幹事より質問）

第 3 回常任幹事会にて決定予定。昨年度は慣例により 11 月中旬に実施したが、特に決まりはないため、支部長の日程や会場の都合によってはより早く決定できる可能性がある。

次年度以降の引き継ぎ幹事会の開催時間について

今後の検討事項として扱うこととなった。